



# 愛知県立岡崎東高等学校

## JRC部



高校生ボランティア・アワード2020



① 児童育成センター  
(お楽しみ会でクイズ大会)



③ 地域イベント補助  
(プラバンコーナー運営)



⑤ 募金活動  
(街頭で募金の呼びかけ)



② 放課後デイサービス  
(お楽しみ会で工作)



④ 特別支援学校と交流会  
(一緒にレクリエーション)



⑥ 手話の啓発活動  
(手話甲子園全国大会出場)

### 「従来のボランティア活動」

#### 【活動概要】

- ① 「児童育成センター（学童保育）」
- ② 「放課後デイサービス（障害児）」
- ③ 「地域交流センターでのイベント補助」
- ④ 「特別支援学校との交流会」
- ⑤ 「募金活動（校内・校外）」
- ⑥ 「手話の啓発活動」
- ⑦ 「高齢者施設のイベント補助」
- ⑧ 「献血呼びかけボランティア」
- ⑨ 「異年齢交流」
- ⑩ 「地域防災ボランティア」
- ⑪ 「地域災害時要援護者宅訪問活動」

等のボランティア活動に取り組んでいます。



⑦ 高齢者施設  
(楽しくコミュニケーション)



⑨ 異年齢交流  
(様々な年代の人と交流)



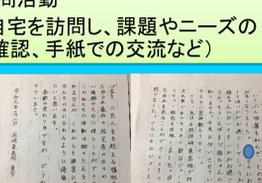
⑪ 地域災害時要援護者宅訪問活動  
(地域の災害時要援護者の自宅を訪問し、課題やニーズの発見、独居老人の方の安否確認、手紙での交流など)



⑧ 献血呼びかけ  
(街頭で協力を呼びかけ)



⑩ 地域防災ボランティア  
(炊き出し訓練ボランティア)



### 「私たちの“志” = “交流&笑顔”」

ボランティア活動に取り組む際は、1・2年生のペアを原則として取り組んでいます。そうすることにより、本校で取り組んできたボランティア活動を途絶えることなく、先輩から後輩へとつないでいくことができます。また、ボランティアで関わった人が「笑顔」になるための活動を継続していくために、生徒からの主体的な改善案ができるようにミーティングを継続しています。現在は、児童育成センターで、本校生徒だけではなく児童と一緒に教える側になってお互いに教え合うダンス教室や、独居高齢者訪問活動の中では、手紙や誕生日メッセージのプレゼントや、ジャグリングを披露して笑顔になってもらう企画などを計画しています。

### 「新型コロナウイルス感染症」感染拡大の影響により本年度導入したボランティア活動

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのボランティア活動が休止を余儀なくされました。そんな中でも部員たちは、「今」自分たちに何ができるかを考え、新型コロナウイルス感染症により影響を大きく受けている医療従事者への募金を実施する計画を立て、六月の学校再開後に全校生徒・教員へ募金を実施しました。また、マスクが不足している状況を知り、子ども食堂へ手作りマスクを作成して寄付をしたり、校内でガーゼマスクを回収して高齢者施設へ寄付をしました。現在は、現場に行ってボランティア活動に参加することは難しい状況ですが、「児童育成センター」で関わった児童たちが少しでも元気になるように、メッセージを作成して児童育成センターへ掲示していただきました。今後も新型コロナウイルス感染症が懸念される状況ですが、こんな状況下だからこそ、部員一人一人が「気づき・考え・実行する」を実践してボランティア活動に取り組んでいます。

### 医療従事者への募金活動



飛沫感染予防として、声を出しての呼びかけはせず、一定の間隔を保ちながらパネルを持って募金を行いました。



### マスク寄付活動



衛生面に気をつけ、子どもに人気の柄を選び、家庭科の先生に助言を受けながら、耐久性がある子ども用のマスクを手作りして、地域の子ども食堂へ寄付しました。



子ども食堂への寄付時の写真は岡崎ホームニュース提供

### 応援メッセージ



ボランティアでいつも会っていた子どもたちへ、メッセージを壁面にまとめて作成して、掲示してもらいました。



### コンタクト空ケース回収／福島ひまわり里親プロジェクト



育てたまわりの種を送り、福島県で復興のシンボルとして咲かせることによって、雇用・教育・観光に繋げ、また、日本全国と福島の「絆」を深めるプロジェクトです。

### 「今」必要なボランティアを！ JRC部



今必要としているボランティア活動を考え実践しているJRC部員

### 【活動団体プロフィール】

愛知県立岡崎東高等学校は青少年赤十字加盟校であり、JRC「Junior Red Cross」部があります。昭和50年にJRCに加盟してから、40年以上に渡りボランティア活動に取り組んできました。今までは、「募金」「交流会」などが主な活動内容でしたが、従来の活動も大切にしながら、そうした活動だけではなく、現在の社会において何が問題としてあるのかを部員で考え、ボランティア活動に取り組んでいます。少子化対策における「子育て支援」に関するボランティアに組み込みたいという意見が多く出たため、児童育成支援センターや放課後デイサービスのボランティアを取り入れてきました。さらに、高齢化に伴い増加している独居高齢者宅訪問が意見として出たため、地域の総代・民生委員さんの協力のもと、災害時要援護者宅（独居高齢者含む）の訪問活動を取り入れて活動してきました。部員に「答え」を用意するのではなく、考える機会を多く設けることによりボランティア活動が活性化してきました。現在では、地域のボランティアを担う重要な存在となってきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の活動が難しい状況となったが、今、社会で求められる事を部員一人一人が考え、社会が求めている新たなボランティア活動を始めています。